

令和4年度 横浜市立吉原小学校 出前授業 実施報告

はじめに

- 公共交通などを適度にご利用する生活への転換を促す「モビリティマネジメント」の一環として、様々な移動手段を目的や状況に応じてかしく使い分ける視点を学ぶ授業を吉原小学校で実施しました。
- 吉原小学校の5年生は、総合学習の時間に「環境」について学んでおり、地球温暖化やSDGsについて考える授業を行っています。今回の出前授業では、地球温暖化の話や横浜市でのCO2排出量の話、また基礎知識として、バスなどの公共交通の現状や、移動を選択する上で考えてほしいことなどについて伝えました。
- 学校の周辺は坂が多く、駅から離れた立地であり、マイカー利用が多くなっています。授業を通して、バスを身近に感じてもらい、利用につなげてもらうことがねらいです。

【日時】 令和4年11月8日（火）
1～3校時 8：40～10：40

【対象】 横浜市立吉原小学校
5年生 1・2・3組（92名）

【内容】 ①座学
「人にも地球にも優しい「かっこいい移動」を考える」
②個人ワーク



©株式会社パスコ ©ジオテクノロジーズ株式会社

学校へのアクセス

【電車】 横浜市営地下鉄
港南中央駅下車 徒歩15分
【バス】 新吉原橋下車 徒歩4分

1 出前講座の全体概要

- 授業の内容・資料は、できるだけ学校の意向に沿ったものとするため、事前に先生と調整を行いながら決定しました。
- 当日の授業は、コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、教室での座学の実施となりました。通常はグループワークを行います。今回は個人ワークとしています。

■ 授業の様子



2 授業の内容

- 授業の冒頭でSDGsについて触れ、公共交通をかしこく使うことは「11.住み続けられるまちづくりを」と「13.気候変動に具体的な対策を」に関連することを伝えました。
- 温室効果ガスの原因でもある二酸化炭素が日頃どのような場面で排出されるか、またクルマがもたらす環境への影響や、バスの利用が減っている現状などを説明しました。これらの説明をしている中でバスの利用が減った理由などを問いかけると、子どもたちは自らの考えを発表し、一緒に今後の移動課題について考えてくれました。
- 子どもたちは、普段クルマや自転車を利用することが多く学校近くのバス停はあまり利用しないようですが、クラスの半数以上は家の近くのバス停から乗車し塾や習い事に行くときなど、日常的にバスも利用しているようでした。
- 移動手段を選ぶときは「環境」「お金」「便利さ」など様々な視点から見ることが大切であり、「行き先や状況に応じて、かしこい移動を考える」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

■ 座学に用いたパワーポイント(一部)

ちょっと質問

ヒト1人を、1km運ぶとき、**クルマ**は、**バス**の何倍、二酸化炭素を出すでしょうか？

A ほとんど一緒

だんだん利用が減ってきたバス

市内を走るバスの1日乗車人員

22年前で約11%減っています

かしこい移動を考えてみよう

(1)~(3)の場合、どんな移動がよいか考えてみましょう

(1) 友達と2人で、本郷台駅へケーキを買いに行くには？
(2) 高い者の方と2人で、戸塚駅へ家電製品を買いに行くには？
(3) 車いすの人と2人で、みなとみらいへ本を買いに行くには？

28

■ 個人ワーキング

おでかけの際に使う移動手段によって、二酸化炭素の排出、移動時間、どのくらい変わるだろうか？
近所小学校から商業中学校に行くときを考えて、下の□を、おかけ算や足し算しながら、うめてみよう。

(ア) バスで行くとき	(イ) 歩きで行くとき	(ウ) クルマで行くとき
目的地: 商業中学校 (バス停) 出発: 近所小学校 (バス停) 徒歩10分 乗車: 5分 二酸化炭素の量: □グラム	目的地: 商業中学校 (徒歩) 出発: 近所小学校 (徒歩) 徒歩10分 乗車: 15分 二酸化炭素の量: □グラム	目的地: 商業中学校 (クルマ) 出発: 近所小学校 (クルマ) 徒歩10分 乗車: 5分 二酸化炭素の量: □グラム
乗車料: □円 おとな2人、子ども1人で行くとき、かかる【お金】全部足すと？ おとな: □円 子ども: □円	乗車料: □円 おとな2人、子ども1人で行くとき、かかる【お金】全部足すと？ おとな: □円 子ども: □円	乗車料: □円 おとな2人、子ども1人で行くとき、かかる【お金】全部足すと？ おとな: □円 子ども: □円
1か月(30日)乗れると、【二酸化炭素の量】は？ 二酸化炭素の量: □グラム	1か月(30日)乗れると、【二酸化炭素の量】は？ 二酸化炭素の量: □グラム	1か月(30日)乗れると、【二酸化炭素の量】は？ 二酸化炭素の量: □グラム

おわりに

- 児童からは「バスの利用者が減っていることを知らなかった」という声や「将来バスがなくなるのは困るからかしこく利用したい」などの声がありました。また、日頃の総合学習で環境について学んでいるので他の環境の話と結びつけて考える児童もいたようでした。
- 成長していく過程の中で「便利なクルマに頼りすぎず、バスで行ける所はバスで行くこと」を日頃から心掛け、家族やお友達などと少しずつ実践してほしいと思います。